山陽新聞

2004年(平成16年)8月10日 火曜日 地方経済 10

探訪 ザ・カンパニー 38

三陽機器

(岡山県里庄町)

前部に取り付けるだけで、トラクターがショベルカーやブルドーザーなど多機能な農業機械に変身―。その「フロントローダー」を主力商品に据えるのが、農業機械製造販売の三陽機器。売上高の七割を占める。

一九六六(昭和四十一)年、兵庫県内の農機具会社を辞めた松本和正・初代社長(故人)、矢野啓一・二代目社長ら九人が同県尼崎市で設立。創業者が井笠地方と縁があったことから八八年、製造工場などのあった岡山県里庄町に本社を移した。

設立当初からローダーのアイデアはあったものの、「当時、トラクターの普及率は低く、耕運機向け補助機器の設計・開発などで収益を上げていたようだ」と寺前公平社長(四八)。

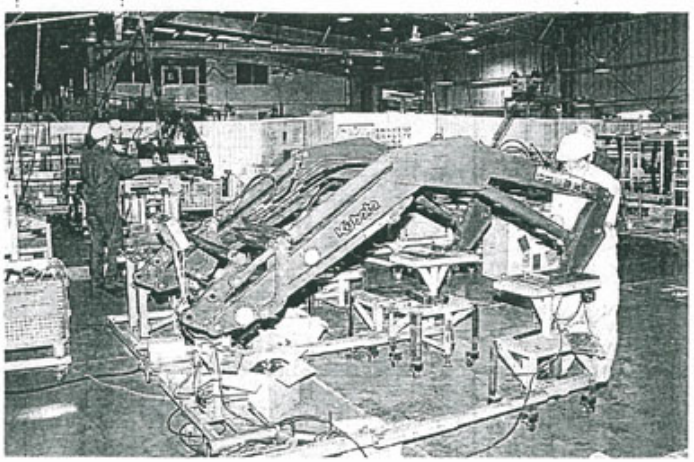
ところが、自社製ローダーを開発した七一年以降、小型耕運機から大型トラクターへの転換が進み、市場が急速に拡大。現在は約五百種類をそろえ、国内シェア約70%のメーカーに成長した。

ただ、後継者不足による農家数の減少に伴い、現在はトラクターの販売台数自体が低迷。七〇年代には年間二十万台を超えていたのが、六~七万台にまで落ち込んでいる。

「ローダー一本では生き残れない」と、三代目・小室幸朗前社長が目を付けたのが環境分野。九四年から環境関連の農業機械の開発に着手し、今では間伐材などを三~五㍉の木片チップにする樹木破砕機や、もみ殻のすりつぶし機、草刈り機など十種類を販売。売り上げはまだ全体の約二割だが、事業の柱として早期に三割強まで高めることが目標という。

寺前社長は「製品開発では、顧客に対し常にさまざまな新しい用途を提案できる体制にし、社是でもある『よろこばれる』商品を提供していきたい」と話している。

(随時掲載)



三陽機器の工場で組み立てられる主力商品「フロントローダー」

寺前公平社長

メモ

所在地 岡山県里庄町新庄(電話0865(64)2871) ▽設立 1966年 ▽資本金 6600万円 ▽事業内容 農業機械、油空圧機器などの開発・製造販売 ▽売上高 27億円(2004年5月期) ▽従業員 100人